

令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・植物の栽培や観察、自然探しや、生き物の飼育をすることで、多くのことに気付くとともに、知識や経験が豊かになった。
- ・生活科の学習を楽しみにしている児童が非常に多い。
- ・多くの児童がクラスや学年での遊び、異学年の児童との交流など、多くの人との関わり合いを通して、相手を思いやる気持ちや、みんなで協力し、グループをまとめたりする力が付いた。
- ・気づいたことや楽しかったことを文に書いたり、発表したりする活動を多く取り入れたことで、自分の思いを表現することができるようになってきた。

(2) 課題

- ・楽しく学校生活を送ったり、生活科の学習に励んだりする中、グループでの活動の際にもめごとが起こると、学習意欲を失う姿も見られる。
- ・多くの児童がクラスや学年での遊び、異学年の児童との交流など、多くの人との関わり合いを通して、身近な人や社会とかかわる楽しさを実感することができたが、なかなかコミュニケーションをとることが難しい児童もいる。
- ・ほとんどの児童は、進んで活動できているが、生活経験が少ない児童は、話したり、聞いたり、書いたり、作ったりなどに苦手意識がある。
- ・グループでの活動や、全体で交流をする場では、自分の気づきや考えを友達に伝えるだけになってしまった。友達の気づきと比べながら聞くことで、自分の考えを広めたり、深めたりすることには、課題がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードを書くときは、観察の視点を指導し、視点を絞って観察するようにする。 ・タブレットを活用して、動植物の成長の様子を写真で記録するなど、新しいことを見つけ、違いに目をつけ、観察させる。 ・動植物とのかかわりは、それぞれが育つ環境作りを配慮していく。また、生活経験には個人差があるため、動植物とかかわったり触れ合ったりする経験を多くもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場면을工夫することにより、身近な人・社会・自然などとかかわる楽しさを実感させ、自分が楽しかったこと、うれしかったこと、困ったことなどに目が向くようにする。 ・様々な方法で表現できるように、ワークシートやカード、紙芝居、模造紙、口頭、絵、写真など、方法を例示する。 ・伝え合う活動では、自分の思いを伝えるだけでなく、友達の話したことに対して自分の考えや気持ちを伝えるなど、話し合いの活動の中でよい表現を取り上げ、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから観察するものや、作るものなど、実際のものを見せることで、イメージをもたせ、これからの具体的な活動と結びつける。 ・活動が終わる際は、必ず振り返りをさせる。そして新たな活動が始まったときに、前回の活動で気付いたことを自覚し、新しい活動で生かせるようにする。 ・一人一人が感じたり考えたりしながら、対象に対する特徴や良さなどの気づきを得られるような学習活動を設定する。

